

只見町ブナセンターだより

企画展

「つる植物の生態と利用」開催中！

<期 間>

2012年10月1日(月)～12月16日(日)

今回10月1日から開催している「つる植物の生態と利用」展は、樹木に取り付き生育する“つる植物の生態”と、昔から今に至るまで、様々なものに利用されてきたつる植物を、パネルと実物展示で紹介します。

企画展に合わせて、12月にブナセンター講座も行いますので、お誘い合わせの上、是非ご来館ください。



【第19回ブナセンター講座】

■つる細工の種類と伝統

日 程：12月1日(土) 13:30～15:00

講 師：谷川栄子 氏 <日本女子大・櫻楓家庭工芸(研)>

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

※受講には、入館料が必要となりますので予めご了承ください

■カゴ編み教室

日 程：12月2日(日) 10:00～12:00

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 休憩室

参加費：800円(入館料込み)

※御予約が必要となりますので、参加を希望される方は只見町ブナセンターまでお問い合わせください。 ☎0241-72-8355

【活動報告】

■企画展

〈只見の川と水辺の生き物たち - 魚類と両生類〉



7月28日から9月23日の期間で、企画展「只見の川と水辺の生き物たち-魚類と両生類展」を開催しました。

只見町に生息している魚類と両生類をパネル解説と実物展示で紹介し大人も子供も楽しめるような展示を行いました。

期間中は、数種類のカエルとアカハライモリ、サンショウウオなどの生体展示を行い、標本と合わせて生きている姿を観察できるようにしました。このほかに、魚や両生類の図鑑などの関係書籍や、カエルの鳴き声を聴く事が出来る器具をあわせて展示しました。

夏休み中ということもありツアーや小学生の団体が訪れ、普段目にする機会が少ないサンショウウオなどを興味深く観察したり、カエルの鳴き声を流したり、楽しみながらご覧いただけました。

〈特別展 自然首都・只見展〉



8月17日から22日の期間に、福島市の“コラッセふくしま”で福島「自然首都・只見」展を行いました。

この企画展は、「只見の自然と暮らし」を町外の方にも知ってもらうことを目的に行われ、只見の四季の自然・そこに生きる動物たち、その自然から私たちが受け取り利用している生物資源（山菜など）そして、伝統工芸（つる細工）などについて、パネルをメインに、書籍・現物展示を行い、より分かりやすく紹介しました。

また期間中には、ブナセンター主任指導員の渡部和子さんが「只見の自然と暮らし」をテーマに講演会を行いました。来場者からは「只見の自然の姿、食文化、山暮らしの文化がわかった。話を聞いて良かった。」などの感想が聞かれました。

来場された方には、原発事故を受けて今も避難生活を送られている方も多く、只見町の豊かな自然を写したパネルを見て「福島県は原発の影響で多くの自然が失われた。その中で、これだけ豊かな自然が残っている只見町には、是非この自然を大切に頑張してほしい。」と涙ぐまれる方もいらっしゃいました。また、「只見町に行きたいが、交通の便が悪く行けない」というような声も聞かれました。

町外の方と直接お話することで、改めて只見町の自然の豊かさを実感しました。さらに、町をどのようにPRして行けばよいのか、来ていただくための課題も再確認できた有意義な企画展となりました。

■ブナセンター講座

〈森林の恵みとその背景 - 生態系サービスを考える〉 6月16日（土）



6月16日に、第16回ブナセンター講座「森林の恵みとその背景-生態系サービスを考える」を開催いたしました。

講師には、東北大学大学院生命科学研究科の教授 中静透先生をお招きし、森林の生態系サービスについてお話をいただきました。

中静先生は、まず森林における生態系サービスとは何か、「森林の恵み・恩恵」と言ったもので、木材や山菜などの直接的な「生物資源の供給」だけではなく、気候緩和や水土保全、病害虫の防止など「森林の持つ

調整機能」や、レクリエーション・保健休養・信仰などの「文化的な機能」を含めた広い役割を差すことを解説されました。

そして、こうした機能が実は、“生物多様性”と深く結び付いていることを指摘し、「生物多様性を“希少な動植物の保護・保全”という狭い意味でとらえるのではなく、地域の多様な生態系の存在と、それを背景とした豊かな生物相、さらに遺伝的な多様性と地域の固有性の保全が重要である」ということをいくつかの事例を挙げてお話しされました。

今回の講座は、森林の恵みを科学的な面からとらえ、その重要性を理解し将来へ生かしていくための良い機会になりました。

〈只見の水辺の生き物たち〉 9月8日（土）



9月8日に、南相馬市博物館 学芸員の稲葉修さんをお招きして、第17回ブナセンター講座「ブナ林の水辺に生きる-只見の川魚たち-」を開催いたしました。

稲葉さんは、初めに魚とは一体どのようなものを指すのか“魚の定義”について説明し、加工食品や全国各地に残る伝説などを例に「魚はむかしから人々の生活の中に生きてきた」ということをお話しされました。

それを踏まえて「只見の川にはどんな魚がいるの?」というお話を、資料を交

えてわかりやすく解説していただき、現在の只見の川魚の現状をお話していただきました。

只見には、在来種である“ニッコウイワナ”と放流魚の“エソイワナ系のイワナ”の2種類のイワナが生息しています。現在は、放流魚であるエソイワナ系がほとんどで、純粋な“ニッコウイワナ”は中々見られないそうです。

稲葉さんは、「イワナなのだから何でもいだろう」という人もいますが、在来種を残すメリットとして「その土地で長い間生きてきた歴史があり、地域の財産として残すことに意味がある」「只見の川に適應したイワナは、大水が出て流されずに生き残る確率が高く、その土地の環境に強い」と説明され、「只見町の魚であるイワナ、もともと只見の川に生きてきた美しい“ニッコウイワナ”を見つけ保護していく必要があるだろうと述べ、イワナを使った町おこしなども提案されました。

〈ナラ枯れの原因とその対策〉 9月22日（土）



9月22日に、山形県森林研究研修センターの齋藤正一さんをお招きして、“ナラ枯れ”についてご講演をいただきました。

近年、日本海側を中心に夏場の山腹で広葉樹が急に枯死する現象が目立ちます。このナラ類やシイ・カシ類の集団枯死を“ナラ枯れ”と呼びます。

只見町では、2009年に新潟県側から広まったナラ枯れが、田子倉ダム周辺、叶津川流域で確認されました。その後、只見川沿いに被害が目立ち始め、現在では金山町方面、伊南川流域に拡

大しています。

齋藤さんは、まずナラ枯れの原因について説明、ナラ枯れの直接の原因は、カビの仲間である“ナラ菌”が樹幹内で繁殖し組織を壊死させ、水を吸い上げることが出来なくなってしまうためだそうです。このナラ菌は、体長5mmほどの甲虫“カシノナガキクイムシ”（以下カシナガ）という虫が媒介し、ナラ類やシイ・カシ類の樹木の幹に運ばれ、その被害が拡大していきます。

除去方法について、直接の原因であるナラ菌に対しては、「樹幹への殺菌剤の注入」、媒介者であるカシナガに対しては、翌年の6・7月に枯死した樹幹から飛び立つ前に「くん蒸処理あるいは木材のチップ化を行う」もしくは「丸太にフェロモンをかけ、カシナガを集めた後に同じくチップ化するか、燃料として使用する」方法などが紹介されました。

■自然観察会

〈身近なブナ林を歩く〉 6月17日（日）



6月17日に行われた自然観察会は、「身近なブナ林を歩く」ということで、国道からすぐの楡戸地区のブナ林へ観察に出かけました。

雨の中の観察会となりましたが、町内外から15名の参加がありました。

楡戸のブナ林に入ると、前日ブナセンター講座で「森林の生態系サービス」について御講演いただいた中静透先生に、「ブナの種子生産から実生の発生」そして“世代交代へのプロセス”をわかりやすく説明していただきました。

参加者も、森の林床に育つブナの稚樹の樹齢を芽鱗痕の数から調べるなど、実際にブナ林の生態を調べ、理解を深めることが出来ました。

参加者からは、「身近なブナ林でも、その素晴らしさを知る機会が持てた」などの感想がありました。

〈河野昭一先生と歩くブナの天然林〉 8月1日（水）



8月1日に行われた自然観察会は、ただみ・ブナと川のミュージアム名誉館長である河野昭一先生（京都大学名誉教授）をお迎えし「河野昭一先生と歩くブナの天然林」を開催いたしました。

当日は好天に見舞われ、県内外から、総勢 27 名の参加となりました。観察地は、叶津川上流に位置するブナの天然林です。普段は、一般の立ち入りが制限され入ることのできない、只見の中でも自然度の高い貴重なブナ林です。

河野先生は、「この木ノ根沢のブナ林は、樹齢が高く梢端が枯れ始めている老木から若木まで、様々な樹齢のブナが生育し、森が変化しているということが実感できる、そこが特徴です」と説明されました。昨年は、ブナの実の豊作の年で、林床には沢山のブナの実生が発生していました。この実生たちが、いま朽ち果てて行くブナの老木に変わり、この森の次世代を担っていくのかもしれない。

河野先生は、最後に「このブナの森は只見町の財産であり、後世まできちんと引き継いでいくことが大事。今を生きる私たちにはその責任がある」と述べられました。参加者からは、「普段は入れないブナ林を見ることが出来て良かった。今度はまた違う季節のブナ林を見たい」との声も聞かれ、大人も子どもも、美しいブナの天然林に感動し、ブナについて楽しく学ぶことのできた観察会となりました。

〈ブナ林に住む魚を探る〉 9月9日（日）



9月9日に行われた自然観察会では、前日に御講演いただいた、南相馬市博物館学芸員の稲葉修さんを講師に、布沢地区の奥に位置する木地師集落跡付近で、「ブナ林に住む魚を探る」を開催しました。

観察地でもある木地師集落跡は、ろくろという道具を使って円形の木器（碗・盆・盃）など挽物と言われる器を作る職人“木地師（きじし）”が、集団で生活していた跡地になります。

鈴木館長から、木地師集落跡についての説明があり、当時の様子を想像しながら集落跡を観察しました。

その後、近くを流れる田沢川に降り、

水生生物の観察会となりました。

福島第一原子力発電所の事故による放射汚染の影響により、今回の観察地が禁漁措置をとったため、水生昆虫や水辺に生きる両生類の観察がメインとなりました。みんなで川に入り、石の下や川に流れ込む細い支流を探ったりしながら、思い思いに生き物を探し、見つかったらみんなで集まり、生態について稲葉さんから詳しい説明を受けました。水生昆虫については、水生昆虫の研究科である今井初太郎さんが参加していたこともあり、今井さんの方からも詳しいお話を聞くことが出来ました。

参加者からは、「今回の観察会は、人数が少なかったものの、様々な分野の自然に関する知識を持った人が集まって、とても面白い観察会になった」という声も聞かれ、充実した観察会となりました。

■料理教室

〈自然の恵み・山っ株を食べよう〉 6月30日（土）



6月30日に開催された料理教室、「自然の恵み・山っ株を食べよう」では、元郡山女子大平出美穂子先生をお招きして、“山っ株”と呼ばれる“オオウバユリ”という植物を食べる料理教室を開きました。

ガスコンロを使わずに外で火をおこして、土鍋を使って調理しました。包丁も、黒曜石でできた石の包丁を使って魚や野菜の下ごしらえをし、昔の人がどんな風に調理していたのか実際に作業しながら体験することが出来ました。

献立は、ウバユリのお団子とその鱗茎が入ったスープに、クルミしるこウバユリだんご入り、ウバユリのでんぷんなどが入った縄文クッキーなどで、その他に塩むすびやお漬物と一緒に、オオウバユリ料理を楽しみました。

〈身近な野草を食べる！〉 9月29日（土）



9月29日に行われた、平出先生による料理教室「身近な野草を食べよう」では、身近に生えている食べられるけど普段は食べないそんな雑草とも呼ばれる野草を調理しました。

初めに、平出先生や参加者が持ち寄った野草の名前をクイズ形式で答えて、楽しく野草について勉強しました。ドクダミ、ツユクサ、イタドリ、イヌタデ、クコ、オモナミ等 30 種類ほどの野草が集まりました。

集まった野草で、けんちん煮、けんちん汁、佃煮、サラダ、おひたし、天ぷらを作り、出来上がると皆でテーブルを囲み、野草の味に舌鼓をうちました。以外にもオオバコの佃煮がおいしいと評判で、その他スベリヒユの和風ドレッシング和えも好評でした。その他の料理も、意外なほどにくせが無くおいしく食べることが出来ました。

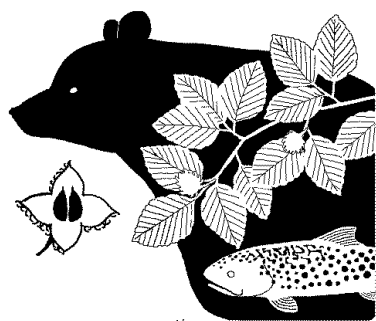
参加者からは「これらは雑草であって雑草ではないことを知った」と感心されていました。

次回は、山菜料理をということで来年の春に開催予定です。今から楽しみです！

【今後の活動予定】

■2012 年度只見町ブナセンター年間行事予定

開催時期	行事名	内容
10月～12月	企画展 第三回 つる植物の生態とその利用	つる植物は、昔から様々な生活用品や民芸品に加工され使われてきました。そんなつる植物をもっと知っていただくというパネルと実物展示をおこないます。
10月28日	自然観察会 皆できのこを調べよう！	実りの秋ということで、キノコ観察会を開催します！意外とどこにでも生えているキノコですが、名前や種類、毒の有無など意外と知らないです。キノコに詳しい町民の方と一緒にキノコ探しをして観察しましょう！
11月11日	ブナセンター講座 ツル植物の生態	企画展に合わせて、ツル植物の生態について、鈴木館長にお話ししていただきます。どこにでもあるツル植物ですが、その生態について意外と知らないことも。企画展と合わせて是非ご来場下さい。
12月1日(土)	ブナセンター講座 ツル植物の種類と伝統	企画展に合わせて、日本女子大 谷川栄子先生をお招きしてツル植物を使った伝統工芸や民芸品など、ツル植物の利用についてについてお話していただきます。
12月2日(日)	ブナセンター講座 カゴ編み教室	企画展に合わせてカゴ編み教室を開催します。カゴ編みの基本を教わりながら、編んでみましょう！
12月24日 ～27日	町外展 首都圏展示・横浜 「自然首都・只見」展	自然首都只見展の首都圏展示を横浜の“かながわ県民センター”で行います。合わせて物産販売も行われますのでお誘い合わせの上ご来場ください。
1月～3月	企画展 第四回 「只見の巨樹・巨木」展	只見町には、多くの巨樹・巨木が発見されています。樹種も多様で、他ではなかなか出会えない巨木も存在しています。そんな巨樹・巨木をパネル展示で紹介いたします。
1月上旬	ブナセンター講座 只見の巨樹・巨木を追いかける	新潟じねんじょの会の刈谷寿さんをお招きし、只見の巨樹。巨木についてお話していただきます。
3月上旬	自然観察会（予定） 冬のブナ林を歩く（癒しの森）	“癒しの森”へ、冬のブナ林を観察しに行きましょう。春や秋とはまた違ったブナの姿に出会えます。



只見町ブナセンター

〒968-0421

福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

「ただみ・ブナと川のミュージアム」内

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料

20人以上は団体割引

■Tel 0241(72)8355 ■web <http://www.tadami-buna.jp>

■fax 0241(72)8356 ■E-mail info-buna@amail.plala.or.jp